

足摺岬小学校3～4年生「松尾地区現地学習」 「福田納屋」「旦那さんの墓」「吉福家住宅」巡見実施

足摺岬小学校3～4年生(児童数7名・担任山岡理江教諭)の地域学習で校区の松尾地区フィールドワークを実施した。午前中に地元のバスを利用し、足摺岬小学校から松尾まで移動し、「福田納屋」「旦那さんの墓」「吉福家住宅」を巡見した。



(1) 「松尾・福田納屋」

福田屋では、納屋主の福田さんから宗田節の加工や販売流通について説明を行い、実際に食べてみたいと、湯がいた節を許可を得て味見した児童もいた。うどんやソバの出汁として大手のうどんチェーン店に宗田節を卸していることが分かった。

(2) 「旦那さんの墓 (角屋与三郎の墓碑)」

「旦那さんの墓」は、紀州日高郡印南浦(ひだかぐん・いなみうら)を本拠に海産物を加工販売・

流通して隆盛を極めていた角屋与三郎の墓碑である。角屋本家の六代目当主・甚三郎（与三郎の兄）が病死し、松尾浦の角屋出張を儀三郎（甚三郎と与三郎の甥）が後継することになった。与三郎は甥・儀三郎が14歳の少年であったため、これを後見するために松尾に移住した。与三郎は、臼碔に近い松尾集落西側の明神湊を本拠にそこを据浦として船団を組みカツオ漁を行い、明神湊に注ぐカンチ川河口部に納屋を建てて節加工も並行して行った。

晩年、与三郎は、甥・儀三郎にカシラゴの碔を臨む松尾の丘陵地に墓を建ててほしいことを頼んだ。与三郎の死後、儀三郎は望み通りに墓を建て、その下宿先であった久武家に与三郎の永代供養を依頼して位牌をあずけた。現在もその位牌は子孫により大切に供養されている。また、松尾浦の清助に1反(1000㎡)の土地を与え、永代墓守の契約を交わした。

（3）国重要文化財「吉福家住宅」

初代吉福屋嘉太郎は、明治6年(1873)に奉公先の俵屋当主が逝去し、これを機に俵屋の所有する五十石船を購入し、廻船業を営んだ。明治10年(1877)に日向国細島(現在の宮崎県日向市)で土地の商人関本源兵衛から手持ちの玄米300石を強引に押し売りされた。当時、九州方面は、西南戦争の真っただ中で緊迫した状況で源兵衛はどうしても早く玄米を売りさばく必要があった。

折しも当時幡多郡では、米の不作で、買い付けた玄米が高値で飛ぶように売れた。これが吉福家の財力の基礎となった。

吉福家住宅は、明治33年(1900)に二代目嘉太郎によって建てられたと柱の墨書き等から推測されている。

清水中学校2年生「総合学習」

「足摺半島の歴史・文化について」

21日、4校時目、清水中学校2階多目的スペースで2年(生徒57名)対象に「総合学習」の出前授業を実施した。縄文時代に足摺半島の海岸段丘面に九州の大分県姫島産出の黒曜石を加工した鍬(やじり)が松尾地区の唐人駄場・山ノ神・沖ノ台等から大量に表採されていることを伝えた。これは、姫島から豊後水道・太平洋を通じて海路で石鍬が搬出された証拠であり、文化が海路を通じて伝播していたことを意味する。

その他、古代の補陀落信仰、中世の方位観、近世の紀州印南浦の旅漁によるカツオ漁と節加工、明治～昭和期にかけての汽船運行、高度経済成長の道路等の話を行った。足摺半島は、海路の視点から歴史や文化を紐解いていかなければならないと伝えたかったが、なかなか上手く生徒たちに伝えることができなかつた。5年ぶりの中学校での授業で緊張したか(笑)? 日頃から意見を集団で練り上げていくことが大事。思考力・判断力・表現力を磨き上げて学習集団としての力をしっかりと身に付けてほしい。期待しています。

